

組織的な若手研究者等海外派遣プログラム報告書

氏名： 瀬戸 裕之	提出日：平成 23 年 3 月 14 日
東南アジア研究所における職名： 非常勤研究員	
* 右記の該当する職位に○をつけて下さい。(講師・助教・助手・ポスドク・博士課程学生・修士課程学生・学部学生)	
派遣先の研究機関等(調査を実施した国名・機関名及びカウンターパートの研究者名)：	
ラオス(ラオス政治行政学院：Bounmy Sichanh 行政学科長)	
フランス(ポール・セザンヌ大学・法学部：Thierry Renoux 教授)	
* 派遣先の研究機関等の種類について右記の該当する箇所○をつけてください。(<input checked="" type="checkbox"/> 学・研究機関・企業・その他)	
派遣期間： 平成 23 年 1 月 10 日 ~ 平成 23 年 3 月 10 日 (派遣日数： 60 日)	
研究活動等の主な内容(該当する番号に○をつけてください。複数可)	
①研究・実験、②フィールドワーク、③セミナー、④インターンシップ、⑤サマースクール等の講習、⑥学会出席、⑦単位取得等、⑧その他	
研究活動の主な領域(該当する番号に1つ○をつけて下さい。)	
①人文学、②社会科学、③数物系科学、④化学、⑤工学、⑥生物学、⑦農学、⑧医歯薬学、⑨総合領域、⑩複合新領域	
派遣の概要(500~700字程度)	
<p>本調査では、ラオスの森林・土地政策の実施過程に関する中央地方関係の調査、並びにフランスにおけるラオス王国政府期の行政文書に関する調査を行った。</p> <p>ラオスでの情報収集では、ラオス政治行政学院をカウンターパートとして、現在のラオスの森林政策・土地政策に関する現地調査および資料収集を行った。首都であるビエンチャンでは、農林省、国家土地管理庁、計画投資省を訪問し、現在の農林政策および土地政策に関する法令、報告書の収集を行った。また、1月22日から1月28日までラオス北部のポンサリー県を訪問し、1月29日から2月5日までラオス南部のアッタプー県を訪問して、地方での農林政策の実施と問題点に関する資料収集と聞き取り調査を行った。特に、今回の地方訪問では、2つの県で森林資源・土地管理が実際にどのように行われているかを明らかにするために、主に県レベルを中心に基礎情報を収集した。</p> <p>フランスでは、エクス・アン・プロヴァンスにあるポール・セザンヌ大学法学部の Thierry Renoux 教授をカウンターパートとして、フランス国立海外文書館において資料収集を行った。特に、前政権である、ラオス王国政府期における法令資料を収集した。また、国際環境法を専門とする大学教員と交流を行い、ヨーロッパにおける主要な環境問題について説明をいただいた。</p>	
事業に係る研究成果(500~700字程度)	
<p>今回の派遣では、いくつかの重要な成果を得ることができた。第1に、ラオスでの情報収集では、現在のラオスの森林・土地資源管理において地方行政機関がどのような役割を果たしているかについて、基本的な知見を得ることができた。特に、北部のポンサリー県では、焼畑の削減と外国投資の関係について調査を行ったが、その中で、中国によるパラゴム植林事業において、県行政が外国企業に対する植林地の配分を行う等、中心的な役割を果たしていることが明らかになった。また、南部のアッタプー県では、森林伐採の過程と県行政機関の役割について調査を行い、地方行政機関が、中央に対する森林伐採量の割り当ての申請、並びに中央が認可した後の実際の伐採実施において大きな役割を果たしていることが明らかになった。これらの情報は、今後、ラオスの森林・土地資源管理における地方行政機関の役割を明らかにしていく上で、重要な視点を提供するものである。</p> <p>第2に、フランスにおける情報収集では、フランス国立海外文書館において、ラオス王国政府期の政治制度・行政に関する基礎資料を入手することができ、今後のラオス行政の歴史的研究のための材料を得ることができた。また、Thierry 先生をはじめ、フランスの研究者と交流する中で、ラオスと日本という見方に加えて、フランスとラオスの交流について知ることができ、より広い視点を得ることができた。</p>	

